

2024年を作品で振り返ろう!

立派な辰で始めました。



◀この招き猫は1年間1病棟に飾られました。



春

◀1病棟はカレンダーと、月ごとの花紙貼り絵を患者さんと制作しています。



ひな祭りです。▶
製作者である患者さんです。2病棟の飾りも作ってもらっています。



春に飾られました。かわいい。



少しメッセージ性のある作品も



夏祭りを行った時の元気が出る飾りです。



沢山のコスモスとブドウの秋飾りです。



こちらは2病棟の職員が考えたユニークなハロウィン飾り



大変そうに見えますが、患者さんの力であっという間に出来上がりました。



リースのようなクリスマス飾り

冬

泰らぎ

Vol.68
2025年
新年号



直方駅前のイルミネーション



温故会
直方中村病院
<http://www.onkokai.jp/nakamura/>
編集・発行 直方中村病院広報委員会



- P1 表紙・目次
- P2 【新年の挨拶】～中村理事長より～
【第67回 九州精神医療学会】
・藤田看護師参加レポート
- P3 【学会の報告～つづき～】
- P4 2024年を作品で振り返ろう!

新年のご挨拶 ～中村理事長より～

新年明けましておめでとうございます。

年頭に当たり一言御挨拶申し上げます。

2025年には国民の5人に1人が75歳以上の後期高齢者となると言われています。また、人口動態は医療・介護、福祉分野だけでなく、建設、IT、運送等各業界に於いても雇用問題に深刻な影響を及ぼすでしょう。物価だけが高騰し、外は全て減少傾向にあるなか、考えようによっては現状維持でも成績は上昇していると判断しても良いかもしれません。

今年は2025年日本国際博覧会:Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan、と題して大阪市此花区の夢洲で国際博覧会が開催されます。開催期間は2025年(令和7年)4月13日-10月13日の184日間。日本国民に加えて外国からの多くの観光客や、大会関係者で大いに賑わうことでしょう。くれぐれも新種の感染症の持込みがないように祈ります。

私が中学1年生の1970年に行われた大阪万博が思い出されます。テーマは「人類の進歩と調和」(Progress and Harmony for Mankind)。開催から50年経過する当時のシンボルである「太陽の塔」は、吹田市にある千里万博公園にて、現代においてもとても神々しく見えるのです。

直方中村病院は、あと2年で創立70年を迎えます。奉仕の精神という理念の元、歴史に恥じぬよう努力して参ります。

2025年 正月  直方中村病院 理事長 中村 重泰



第67回 九州精神医療学会【藤田看護師参加レポート】

11月28日・29日に第69回九州精神医療学会の為、鹿児島県の鹿児島サンロイヤルホテルに行ってきました。引率で寺野看護部長、2病棟から井上看護主任、3病棟から藤田、1病棟から田口看護師、臨床心理士の時安氏の5名で参加させて頂きました。今回は井上主任が「精神療養病棟での白癬のケアについて」、藤田が「認知症治療病棟における新型コロナウイルス～病棟での工夫と患者への影響～」の演題でそれぞれ発表させて頂きました。

発表が2日目ということもあり、まずは会場の視察…と覗いた部屋には、大きな窓があり鹿児島のシンボル桜島も見る事が出来ました。私たちが写真撮影に夢中になっているとホテルのスタッフさんが、さりげなくカーテンを全開にして撮影しやすいよう配慮してくれ、心遣いがとてもありがたかったです。ホテルのクリスマスの飾りつけに少しワクワクしながらも、他院の発表を聞いて勉強し…と、あっという間に一日が終わりました。

【3頁に続く】



2日目。井上主任の発表です。「精神療養病棟での白癬のケアについて～継続的なフットケア～」という演題です。近年、精神療養病棟の高齢化に伴い、患者さんのセルフケア不足も目立つようになりました。そこで多忙な業務の中で効率よく、かつ継続的にフットケアが出来ないか対策し取り組んだ結果の報告でした。患者さんへ適切な声かけを行い、意識付けを徹底することで症状の悪化や新たな白癬の出現もなくなった、との事で継続的なケアの工夫が必要だと感じました。



続いて藤田は認知症治療病棟にて発生したクラスターの経験を通して、工夫と患者さんへの影響を報告しました。認知症患者さんは自身の症状を正確に訴えることが難しく、また認知症特有の徘徊症状もある為、一旦感染者がでると爆発的な感染を起こすことが多いのです。早期に全患者対象に抗原検査を施行し無症状の方を含めた陽性者の発見、また発熱の経過のみでなく食事・水分摂取状況を把握し対応したことで脱水などの2次疾病も回避。また感染区域内での行動制限を緩和する事で患者さんのストレス軽減とADL低下にも繋がりました。クラスターを経験する度に工夫と効率化が図れ、感染から終息までの期間も短縮する事が可能となった結果を報告出来ました。



7分の発表後に3分の質疑応答。どんな質疑がくるのかと最後の3分が一番緊張した時間でしたがパソコン等のアクシデントもなく無事に発表を終える事が出来ました。

緊張から解放されたためか…初日より他病院の発表もしっかりと頭に入ってきました。

どの病院も様々な取り組みをされ工夫を重ねながら日々患者さんと向き合っている事を改めて感じました。様々な視点からの取り組み、介入の方法を学ぶことができ、とても刺激になりました。

帰りの新幹線まであまり時間の余裕もありませんでしたがランチョンセミナーには参加でき、知識を深める事もできました。

今回の学会で貴重な体験をさせていただいたこと、他院の発表を聞き、学んだことが多く濃い2日間でした。また発表に至るまでたくさんのご協力いただいた皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。今回の経験を活かし患者さんとの関わりを今一度見つめ直し過ぎていきたいと思っています。

